

3-9. 共同利用・広報グループ

兵藤 一行

物質構造科学研究所放射光科学第二研究系

総合研究大学院大学高エネルギー加速器科学研究科物質構造科学専攻

1. 概要

本グループは、共同利用・広報に関する幅広い情報交換、意見交換、情報共有を行いながら、現在のPF共同利用体制の維持と必要に応じた各種変更への対応、ユーザーや一般者への各種情報提供、広報に関する活動等を実施している。

グループ会議には、グループ構成員（物質構造科学研究所放射光科学第二研究系：宇佐美徳子、大島寛子、光ビームプラットフォーム：伴弘司、物質構造科学研究所：東郷雄一）とともに、物質構造科学研究所執行部でPF共同利用・広報担当の足立伸一副所長、共同利用に関わる主幹秘書（王）、PF事務室職員（外山）が参加している。放射光共同利用実験審査委員会PF-PACについては、研究協力課共同利用支援室共同利用係とともに放射光共同利用実験審査委員会（PF-PAC）準備打ち合わせを実施して、PF-PAC委員長（足立伸一副所長）、PF執行部との密接な連携のもとで、PF-PACの事務運営を共同利用係とともに実施している。

2. 活動内容

2018年度には、13回のグループ会議、6回のPF-PAC準備打ち合わせ（共同利用係参加）を実施した。必要に応じて、共同利用・広報に関する個別打ち合わせ（KEK研究成果管理システム改修、共同利用者支援システム（KRS）改修、研究成果の統計情報整理、PFWEB更新、PF-PAC事務運営についてなど）を実施している。また、共同利用、ユーザーに関することは、必要に応じて先端基盤グループ、安全グループ、産業利用促進グループ、物構研企画広報室、PF主幹秘書室、PF事務室、物構研事務室等と連携をしながら対応をしている。以下、主な活動について記載する。

2-1. PF-PAC関係

年二回（1月、7月）開催されるPF-PACに関する各種事務局対応（実験課題公募関係、ステーション担当者への対応、レフリー審査、イエローカード制度への対応、PF-PAC分科会審査、安全審査、PF-PAC全体会議（資料整理、議事進行確認）、各研究分野の実験課題申請に関する統計情報整理、他放射光施設等との情報交換）。PF-PACへの提案事項、PF-PACからの提案事項への事務局対応。PF実験課題申請システム、PF実験課題審査システムの改修について、PF-PACからの要望も含めて、引き続き、具体的な検討を実施した。一部の項目は、年度内に改修を終了した。

2-2. 共同利用関係

共同利用に関する各種データの解析に関する対応。ユーザーからの各種コメントや要望に関する対応（必要に応じてKEK管理局との意見交換、対応依頼、ユーザーへの情報提供など）。新規利用に関する問い合わせへの窓口としての対応。施設からのメールマガジンの発送（4回）、実験課題公募開始に関する施設からのメールマガジンの発送（4回）。PF関係員等旅費支給に関する窓口対応と今後の旅費支給運用を検討するための統計情報の整理。ユーザー用PF自転車整備、宅配便に関する対応。ユーザー控室、仮眠室、トイレ等の業務委託業者による清掃業務に関する対応。また、文部科学省資料等を参考にしながら、共同利用のあり方に関する情報共有、意見交換を実施してきた。

2-3. 広報関係

PFWEBページからの各種情報発信への対応。サイエンスカフェ（チョコレート・サイエンス関係）、各種サイエンスキャンプ、講習会実施への対応。一般見学者、KEK一般公開、メディア懇談会、サイエンスアゴラ、ナノテク展、ビデオ撮影等への対応。放射光学会、ナノテク展、量子ビームサイエンスフェスタなどの施設ポスターの制作。放射光関連各種パンフレットの制作と増刷に関する対応、産業利用ユーザーを含む新規ユーザー獲得のための利用の手引き制作に関する対応（産業利用促進グループとの連携）。KEKTIA推進室との連携で、BL-19実験装置（X線顕微鏡装置）の模型（縮尺1/10）を製作して、ナノテク展での展示、PF一般見学者への展示を実施している。

3. 今後の展望

現在のPF共同利用・広報に必要な事項については、予定されている組織改組後、IMSS執行部、PF執行部、KEK内関連部署との密接な連携のもとでPF運営部門として対応していく予定である。共同利用に関する各種データの解析と整理、新規ユーザー獲得のための工夫について、また、将来の共同利用のあり方や戦略的広報などについて、引き続き、各種情報を収集しながら情報交換、意見交換がPFとして必要であると考えている。